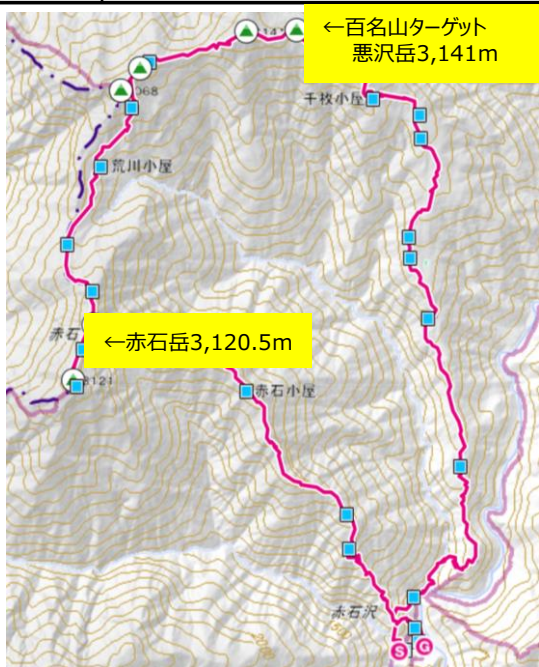


|                     |                |     |                  |            |   |
|---------------------|----------------|-----|------------------|------------|---|
| 7月度 <b>例会</b> 山行報告書 |                | 報告者 | 町田 修             | 参加<br>メンバー | CL岸上薫 SL谷口壮耶<br>西川徹朗 鈴木美穂子<br>OB:金子 清 津田廣一<br>藤田勝啓 町田 修(記)<br>ゲスト:澤田 愛 永井美樹 |
| 個人                  |                | 報告日 | 8 / 21           |            |   |
| 山域                  | 南ア 赤石山脈        | 山行日 | '24年7月25日-28日    |            |   |
| 山名                  | 悪沢岳 赤石岳        |     |                  |            |   |
| 山行目的                | 親睦 & 百名山登頂記念登山 |     | コースタイム(天候:天気図記号) |            |   |

配布先  
集会: 12  
山行: 1  
リーダー  
原紙: 集  
会担当者



25万分の1地図

7/25(木) 晴れ  
OB組  
10:00刈谷駅発  
15:30 畑薙第一ダム着  
16:00白樺荘着

7/26(金) 晴れ  
現役/OB合流  
07:10白樺荘発  
07:20現役グループ合流  
07:30畑薙第一ダム発  
08:40榎島ロッジ着  
08:55榎島ロッジ発  
11:15-35小石下着/発  
13:15-30駒鳥池着/発  
16:10千枚小屋着  
21:00就寝

7/27(土) 晴れ/曇り  
04:00起床  
04:40千枚小屋発  
05:25-50千枚岳  
06:30-40丸山  
07:00悪沢岳登頂  
07:40悪沢岳発  
08:30-55荒川避難小屋  
10:00-10荒川小屋  
11:00-10大聖寺平  
11:20-40小赤石岳  
13:00-30赤石岳着発  
15:00-10富士見台  
15:30赤石小屋着

7/28(日) 晴れ  
05:00起床  
05:45赤石小屋発  
08:30榎島ロッジ着  
10:30榎島ロッジ発  
11:40畑薙第一ダム着

〈山行報告〉 7/25(木):OB組、本日移動日。畑薙第一ダムサイトのバス停を偵察し、白樺荘に宿泊する。

7/26(金):畑薙第一ダムバス停で現役グループと合流。東海フォレストのバスで約16kmのダムサイトのくねくね道を落石対応のヘルメットをかぶり榎島に向かう。榎島ロッジから千枚岳に延びる尾根を、2600mの千枚小屋まで大汗かいて標高差1500mを登り切る。南アルプスは森林限界が高く、千枚小屋まで樹林の下を歩く。東から登る太陽の日差しも樹林に遮られ、直射日光を浴びずに歩けた。樹林の隙間から時々、南東方向に笹ヶ岳が見える。早足組みとゆっくり組にパーティーを分け、暫く歩いたところ千枚小屋についた。我々は別棟貸切で夕食後、壮耶と愛ちゃんの誕生会で盛り上がる。明日の悪沢岳本番に水を差さないよう、早々に寝る。

7/27(土):朝食のおにぎりや昼食の弁当を作ってもらい、行動食を買いそびれた現役組も一安心の様子。千枚岳の手前で針葉樹林から這松帯に変わる。そして、たくさんの高山植物が姿を表す。千枚岳から丸山を経て、岩峰帯の悪沢岳が見えてきた。国土地理院地図1/25000では東岳(悪沢岳)と表示されている。深田久弥は著書「日本百名山」で読者に呼びかけている「どうかこれを東岳と呼ばずに『悪沢岳』と読んでいただきたい! 荒川岳の中の東側という平凡な名「東岳」では無く、南アルプス屈指の立派な山の存在感を示したかったのだ。悪沢岳直下でトップの西川が私と金子にトップを譲ってくれた。なんと素敵な心遣いだろう! 感無量で百座目の悪沢岳を金子と登頂できた。そして、次から次へとサプライズが続く(サイン入りタオル、くす玉、名前入りの扇)、メンバーの優しさ感謝のひと時だった。記念撮影を終え、赤石岳へ向かう。大聖寺平辺りで広河原方面から雲が湧いてきた。早々に赤石岳を片付け、長い下りを経て赤石小屋へ着く。悪沢登頂のサプライズはここでも続く。

7/28(日):早朝に小屋を出発し、榎島ロッジに2時間45分で下り切る。元気な現役に何とか付いていく。13:00発のバスを返上し、10:30発のバスで畑薙ダムに向かう。・・・素晴らしい山行をありがとう!!

確認  
(リーダー)  
岸上  
作成  
(報告者)  
町田

〈リーダー所見〉一年前から計画された悪沢岳で町田さん、金子さんの百名山完登をみんなで盛大にお祝いする事が出来てホッとしています。事前準備を頑張ってくれた北の愉快な仲間たち、怪我を治して参加してくれた西川ちゃん、この山行前に99座まで仕上げてきた金子さん、あと、忘れてはならないのが、残念ながら参加は叶いませんでしたが、今回の山行を3日間ともに晴天にしてくれたテテちゃん、メンバーみんなの思いで素晴らしい山行に出来たと思います。まだまだ、みんなで山に行きますよ^^ 岸上



## 7月26日（金）千枚小屋へ写真紀行 谷口壮耶



樺島到着、天気OK、お祝い準備OK！



こちらもバッチリ。みんな自然と笑顔になる



樹林帯ではかわいいキノコが豊作



展望台で明日のルートをとらえる



富士山を隠すなつぐも



小屋に到着、まずは外で乾杯！



夕食はハンバーグ



たくさん食べました



食後、誕生日組二人のケーキがサプライズで用意され...



誕生日を祝っていただきました  
ありがとうございます！



藤田さんもウクレレを披露





千枚岳



祝・百名山完登！



一緒に悪沢岳登頂



百名山完登おめでとうございます！約50年ずっと友達で健康で一緒に踏破できることに感動しました。それに立ち会ってお祝いすることができてとても幸せなひと時でした。ありがとうございます。これからも一緒にたくさん山に行けることを楽しみにしています^^(鈴木美帆子)



## 7月27日（土）悪沢岳～赤石岳～赤石小屋への写真紀行 澤田 愛



<中岳小屋でちょっと休憩>



<壮大な赤石岳>



<荒川小屋からトラバース>



<荒川三山制覇！>



<赤石岳山頂>



<赤石岳登頂バンザイ！>



<赤石小屋で乾杯♪>



<表彰状と記念撮影>



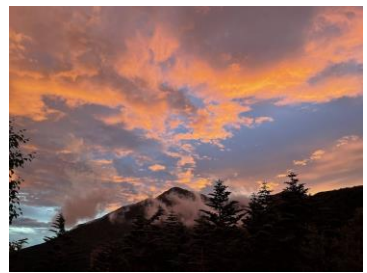
<シャンパンでお祝い>



<お祝いケーキ▲>



<紅く染まる赤石小屋>



<夕焼け雲と赤石岳>



<マツムシソウとタカネナデシコ>



<シナノキンバイ>



<ハクサンフウロ>



<タマゴダケ(たぶん)>

☆悪沢岳での町田さん&金子さんの日本百名山完登の感動に浸りながら、トンガリ帽子を被りゴキゲンにお花畑を下る。荒川三山を制覇し、談笑しながら進んでいくうちに、大きい赤石岳が段々近づいてきた。最後のひと踏ん張り、みんなで頑張って赤石岳登頂を目指す。赤石岳山頂で百名山チャレンジ手ぬぐいを広げて記念撮影♪達成感いっぱい！あとはサプライズお祝いが楽しみで足早に下る。赤石小屋でお二人の日本百名山完登を表彰状とケーキとシャンパンでお祝い、お二人とも喜んでくれて良かった！完登達成に至るまで、49年間の思い出話や今日に至る思いと今後の抱負を聞かせていただいた。悪沢岳山頂でもらった襷(百名山チャレンジ手ぬぐい)と共に、これからもこの素敵な仲間たちと一緒に山を通して素敵な思い出をつかっていけるよう、一座一座を大切に登っていきたい。皆さんとのご縁に改めて感謝です、今回のチャレンジにご一緒させてもらい元気をもらえました！ありがとうございました！



## 7月28日（日）赤石小屋～榎島ロッジへ 町田 修



↑ 昨夜の夕焼けは  
本日の晴天を約束していた

赤石小屋を元気に出発！ →  
榎島まで1450mを下る



← 夜が明ければ、晴天！

赤石岳3021mと聖岳  
3013mの間に  
ピラミダルな山が見える  
赤石小屋からしか  
確認できない  
「兎岳2800m」なのだ！



↑ 榎島ロッジのご褒美！

### 金子さんメッセージ

山を始めて49年目にして同期の町田と共に百名山を達成することができた。二人同時達成に意味深さを感じる。現役時代は部の行事を優先し、日本アルプス、八ヶ岳などが中心だった。また百名山にもあまり拘りもなく目指してもいなかった。60歳を過ぎ、同世代のOBたちで「おやじの山旅」と銘打って日本全国の山を登るようになった。9年が経ち、いつのまにか100座に近づいていた。今回、現役・OBの愉快的仲間たちと一緒に登れたことを有難く、大変嬉しいと思う。これからも素敵な山旅を仲間と共に歩きたい。

### 番外：リニア構想と南アルプス



☆南アルプス、荒川岳（悪沢岳・中岳・前岳）の北部地下をリニアが走る構想。大井川・富士川の源流がそこにあり、針葉樹の森と這松と高山植物と森の生き物の楽園が有る。

今回、荒川三山から赤石岳へ縦走しながら、この素晴らしい景観と、ゆっくり流れる時間の中で、この下を≒500km/hのリニアが走る必要性和地上の空間とのアンマッチを感じた。高い技術力の背景に、暗黒の地下を走る抜ける世界の嬉しさがわからない。荒川小屋から大聖寺平に向かう広大なトラバスイートをゆっくり歩きながら、広河原から吹く風を気持ちよく感じながら、こんなことを考えていた

……？ 年か？ 町田